

AIは民主主義を深化させるか？

人の役割を AI が代替する局面が増えているが、政治的熟議に AI は活用できるのであろうか。熟議の要諦は、人々が様々な情報に触れながら自らの意見を再考・修正するところにある。人々の情報収集を AI が支援するなど、熟議の過程に AI を介入させたとき、人々の意見形成にどのような影響が及ぶのか。

本プロジェクトでは、少子化政策の財源は税金・社会保険料と国債のどちらがよいかという争点を例に、熟議における AI 活用の可能性を探り、以下の結論を得た。第 1 に、将来世代の意見を人間が予測しても AI が生成しても、その意見を見ると、将来世代の意見に接しないときと比べて人々は税金・社会保険料の引き上げに肯定的で、国債発行に否定的になる。第 2 に、将来世代の意見を AI が生成した場合も、人間が作った場合から少子化対策の財源に関する人々の考え方の変化に大差は見られなかった。第 3 に、人が提示した論点は自己中心性バイアスがみられるのに対し、AI が提示した論点はより多様な視点に立っており、かつ多くの回答者から重要な論点として評価された。

これらの知見は、民主政治における意見の提示や論点の設定という人間の役割を、AI は不自然ではない程度に代替できることを示唆している。

● 将来世代の意見は、人も AI も熟慮に影響を及ぼす

少子化政策の財源を「税金・社会保険料の引き上げ」と「国債発行」のどちらに求めるかについてのアンケート調査を行い、複数の専門家の意見を聞いた前後で、回答者の意見がどう変わるかを調べた。まず、専門家の意見の中に、将来世代の意見（人や AI による意見）を含む場合と含まない場合で、回答者の意見の変化に違いがあるかを見たところ、前者の方が後者と比べて、税金・社会保険料に賛成の人が増え、また、国債に反対の人が増える傾向が見られた（図）。これは、将来世代の意見は税金・社会保険料の引き上げに肯定的で、国債発行に否定的であったことに起因していると推定される。少子化の財源を検討する上で、将来世代の意見を加味する意義が明らかとなった。

● 人と AI、熟慮に及ぼした影響は同程度

次に、将来世代の意見を、人が作成した場合と AI が生成した場合と

で比較したところ、回答者の意見の変化に統計的に有意な違いは見られなかった。人々の熟慮過程において、AIによって生成された意見が少子化問題のスペシャリストの意見と同等の役割を果たす可能性を示した。

● 人の論点と AI の論点の比較

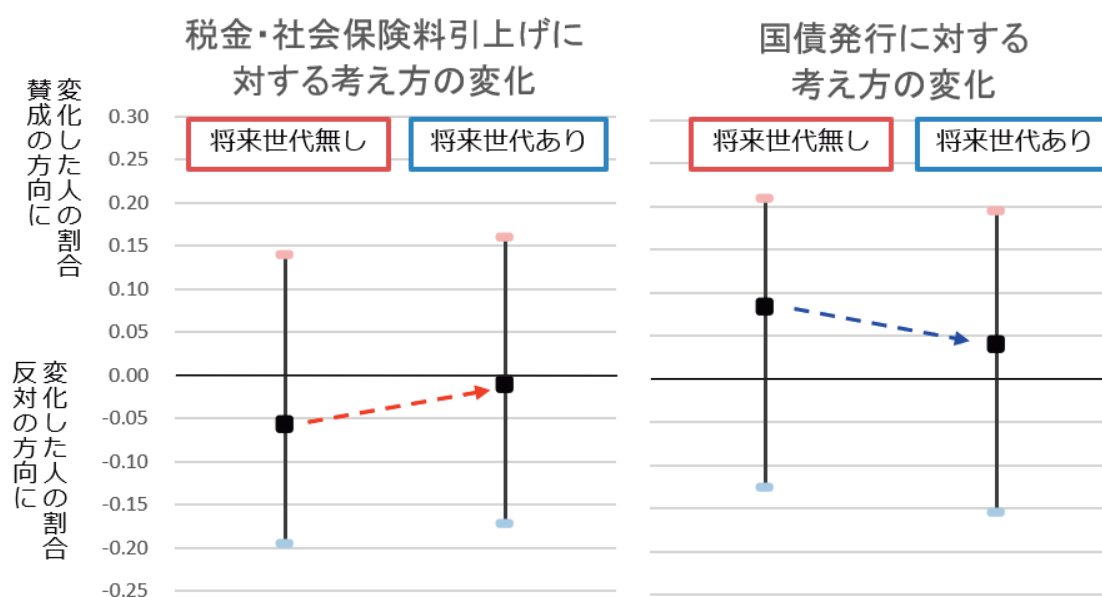
どのような論点で専門家の意見の違いを見せるかが重要となる。人が考えた論点と AI が示した論点を比較すると、人の論点では、「負担を増やす前にやるべきことはないか」など自身の損得を優先的に考える自己中心性バイアスを帯びた視点が多かった。一方、AI により抽出された論点には、専門家が発信している論点を包括する傾向が見られた。その結果、人と AI の論点の違いによって、回答者の意見の変化に違いがあった。

回答者に対して、どの論点か AI によるものか分からない状態で重要だと思った論点を挙げてもらったところ、AI の論点を選んだ人の割合は人の論点を選んだ人の割合と大きく変わらなかった。熟慮のための論点整理として AI を活用する可能性を示しているといえよう。

(注) 熟慮型調査の概要

それぞれの（人間または AI が抽出した）論点について、それぞれの（人間または AI がとりまとめた）意見を紹介した動画を人々に見てもらい本調査を行い、各動画を視聴した前後の意見変化を観察した。その際「将来世代」の意見を含めるか否かによって、人々の意見が変化するかについても併せて実験した。

図 将来世代の意見を視聴しなかった場合と、視聴した場合の考え方の変化



(注) 熟慮前後で賛成の方向に変化した割合を正、反対の方向に変化した割合を負で表している。四角はその和であり、四角が 0.00 を上回っていれば、賛成の方向に変化した割合の方が大きいことを示す。

著者

谷口 将紀 東京大学大学院法学政治学研究科教授／NIRA 総研理事長
鈴木 壮介 NIRA 総合研究開発機構研究コーディネーター・研究員
竹中 勇貴 NIRA 総合研究開発機構研究コーディネーター・研究員



PDF はこちらから